

予算常任委員会

補正予算5億4780万円を賛成多数で可決

予算常任委員会は本会議から付託を受け9月15日に付託議案審査、23日に各分科会審査報告、同報告に対する質疑および会派質疑、27日に討論・採決が行われた。

■主な歳出

社会保障・税番号制度システム整備費	295万円	し尿処理場管理運営費	5,283万円
番号制度に係る小中学校ネットワーク分離業務。		汚泥再処理センター機器修繕等。	
みちのく三大桜名所プロモーション強化事業費	200万円	ごみ処理場管理運営費	7,396万円
北上市、弘前市と連携した海外向けプロモーション強化事業。		環境保全センター機器改修工事。	
インバウンド横軸連携受入整備事業費	1,358万円	温泉事業会計補助金	4,500万円
2次交通運行、4市連携2次アクセス整備業務委託。		温泉事業会計補助金の追加。	
インバウンドサイクリングコース活用事業費	421万円	冬季交通対策費	3億2,418万円
広域サイクリングコース整備に係る調査・企画事業。		除排雪関連経費の追加。	

議論のポイント

～予算委員会質疑から～

クニマス里帰りプロジェクトについて

質問 具体的な使途とその予算効果が見込めるか。

答弁 アドバイザー2名の謝礼・旅費である。田沢湖の歴史・生態等わかりやすく、魅力ある展示にするようアドバイスをいただく。

有害鳥獣駆除事業について

質問 檻は市でいくつあるか。今後の対策・対応は。

答弁 檻は市で13基、田沢湖猟友会4基、角館猟友会1基の計18基ある。人的被害の防止と駆除を最優先に、鳥獣被害対策実施隊等と連絡を強化して、クマ被害防止に努めていく。

インバウンド事業（観光復興交付金）について

質問 国交付金の活用と仙北市経済への波及効果について。

答弁 東北復興対策交付金を充たし、3カ年（28、29、30年）

事業で、国が8割を負担する。みちのく三大桜名所、横軸連携、サイクリングコース活用の三事業である。効果は広域事業として、29年300人、30年600人増を見込んでいる。宿泊人数5万3千人（県内）が目標である。

環境保全センター費について

質問 昨年の事件は、一社のみの随意契約が長年続き、見抜けなかった事が原因である。この予算の内容・詳細についてと今後の契約方法、業者選定は。

答弁 し尿処理場は、汚泥再生処理センター機器・計器の修繕費、各種ポンプ場の点検整備費等である。ごみ処理場は、環境保全センター機器類の改修工事費等である。

設備の構造・機能・施工と性能について、修繕、工事に分けて個別に検討している。

本工事の必要性和妥当性を外部の専門家から精査して頂いている。金額の妥当性は、指名審査会と「随意契約適正化ガイドライン」に則り、透明性の確保に努めている。

街灯設置状況について

質問 予算化された街灯設置状況と当初予算の迅速な執行をお願いする。

答弁 外の山線や西明寺中の通路等9基は設置済みである。105号線の高校通学路には、電柱・電線が無いので、東北電力と協議中である。できるだけ早く設置していきたい。

反対討論

クニマス里帰りプロジェクトのアドバイザーへの予算である。田沢湖再生の目的達成にはかなりの年月がかかる。クニマスの生熊展示と稚魚の借り入れも難しい。現実を直視すれば、時期尚早と考えるので反対する。

マイナンバー制度は、プライバシーを侵害し、徴税の強化・社会保障・医療費にも係わってくる。将来、暮らしは窮屈になってくるので反対する。

採決

賛成多数により
補正予算案は可決
された。